

中部中学校だより

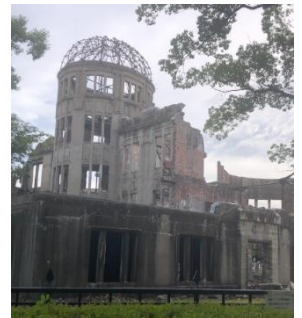
きずな

令和8年9月1日発行
第12号
亀山市立中部中学校
亀山市田村町75番地
☎：82-2101
文責：平野



長い夏休みが終わり、本日から2学期が始まりました。学校だより第11号でも書かせていただきましたが、できるだけ早く夏休み中の生活リズムから学校生活のリズムに体を慣れさせて、気力、体力ともに充実した日々が過ごせるようにしていきましょう。特に今年も9月以降、暑い日が続きます。熱中症の予防の第一は、しっかりと睡眠をとること、毎朝しっかりと朝食をとることです。毎日規則正しい生活を送るようにしていきましょう。

皆さんにとって、今年の夏はどんな夏だったでしょうか。今年の夏、私は5年ぶりに広島市にある平和記念資料館を訪れました。資料館内にはたくさんのテーマごとの展示があります。今回の見学で私が一番印象に残ったのが、皆さんと同世代の子どもたちが学校から建物疎開の作業中に原爆の犠牲となったことを紹介している「魂の叫び」というコーナーでした。建物疎開とは、空襲による火災が広がるのを防ぐため、あらかじめ建物を取り壊して空地を作ることで、原爆投下のあった8月6日は、広島市中心部で各学校ごとに大規模にこの作業が行われる日となっていたため、多くの子どもたちが屋外での作業中に被爆し、亡くなりました。その作業をしていた人たちの多くが現在の中学校1、2年生にあたる国民学校高等科の児童や中学校・高等女学校の1、2年生でした。原爆投下当時、広島では約7,200人の子どもたちが亡くなりましたが、そのうちの約82%にあたる約5,900人が建物疎開作業の最中に被爆して犠牲になったと言われています。資料館には8月6日の朝、屋外での作業中や移動中に被爆し亡くなった子どもたちが身につけていた、ボロボロになった衣服（学生服やモンペなど）やカバンが展示されていました。広島・長崎の原子爆弾投下後、日本は無条件降伏をし、戦争が終わりました。原子爆弾の投下による甚大な被害と、それに伴う極限の危機感、日本の降伏を決定づけた最大の要因の一つといわれています。皆さんと同世代の子どもたちをはじめ、たくさんの人たちの尊い命の犠牲が今の私たちの平穏な毎日の生活につながっているということを忘れてはならないと思います。「魂の叫び」とは、そのことを意味しているのかもしれませんが。



今回の資料館の見学でもう一つ印象に残ったことは、外国人の見学者の方が大変多かったということです。近隣のアジア諸国だけでなく、ヨーロッパやアメリカをはじめ世界各国の人たちが資料館の来館者の6割から7割を占めていた印象でした。近年インバウンドといい、海外から日本を訪れる外国人旅行者が増えているのは事実ですが、それ以上の数の外国人の方々が平和

資料館を訪れ、時間をかけ熱心に展示を見学してみえました。世界では今も戦争が起こっています。アメリカも戦争をしています。ロシアも戦争をしています。世界の人々はこのような状況の中、今平和についてしっかり考えなければならないという意識（危機感から）でヒロシマを訪れ、資料館を見学されているのかもしれないと感じました。私たちもしっかりと自分自身の問題として平和について考える、ということをしなければならないと思いました。

今日から2学期がスタートをします。2学期は2年生の職場体験学習、文化祭など様々な行事があります。特に文化祭の合唱コンクールでは、1つの合唱曲を学級の仲間と創り上げていくなかで、合唱の技術だけでなく、練習を進めていく過程での仲間とのつながりや良好な関わりの度合いが大切になってきます。普段の学校生活の中で仲間のことを思い、お互いに尊重する気持ちをもって関わりをもつことの積み重ねが、合唱コンクールで学級が1つになり素晴らしい歌声を響かせることにつながります。また、普段の学校生活の中で、お互いのことを思い尊重しながら学校生活を送ることが、今まで以上に自分自身の生活や仲間との関わりを豊かにし、日々の生活をより良く豊かなものにしていきたいと思います。今年の合唱コンクールでは、皆さんから素晴らしい歌声を聞かせてもらえることを楽しみにしています。そして、仲間とのつながりを大切にしたい2学期を送ってください。

また、2学期は1年間の中で1学期と3学期をつなぐ中間の学期になります。1学期の自分の成果、課題を受けての2学期にしてほしいと思います。そのためにも、1学期の自分自身をふりかえったうえでの目標設定が大切です。自分自身がたてた目標に向けたとりくみや活動をすすめ、2学期を充実したものにし、1年間のまとめの学期である3学期につなげていけるようにしましょう。

「Kameyama Study Week」がはじまります！

9月4日から9月11日まで、今年度2回目の「Kameyama Study Week」の取り組みが始まります。

今回の「Kameyama Study Week」では本校の重点取組は、

- ・学習規律の徹底の取組をすすめる。
- ・定期視点に向けてしっかり取り組む。

と、なっています。

学習規律には、学校の授業に臨む生徒の態度、家庭学習の定着があげられます。学校では、生徒が授業に臨む姿勢の確認、全国学力・学習状況調査みえスタディチェックの結果分析を受け、生徒が主体的に学習に臨めるような教材の選定、授業の進め方の工夫・指導を行ってまいります。また、家庭学習につながるワークタイムの実施や、学習のふりかえりとして家庭でのキュビナの実施をすすめます。ご家庭におかれましても、お子様自身の授業に臨む姿勢、家庭学習の様子についてお話をしていただくなど、ご協力のほどお願いいたします。